

チョーライ病院向け病院運営・ 管理能力向上支援プロジェクト

2017年11月

1. 第1回合同調整委員会(JCC)開催

2017年10月3日、プロジェクトの第1回合同調整委員会 (Joint Coordinating Committee - JCC) が開催されました。

JCCとは、プロジェクトの進捗状況を確認し、年間計画について日本側、ベトナム側双方で合意するために、少なくとも年に1回行われる会議です。

JCCには、チョーライ病院側からプロジェクト・ダイレクターである Nguyen Truong Son 院長以下、プロジェクトの主要カウンターパートが出席し、日本側からは、JICA本部人間開発部の吉田友哉課長、JICAベトナム事務所の岩間望次長をはじめ、本部・ベトナム事務所の担当職員および長期専門家がJCCメンバーとして出席しました。

また、オブザーバー参加として、在ホーチミン日本国総領事館の小林章子領事および日本国内協力機関である国立国際医療研究センター (NCGM) から日下英司国際医療協力局長および明石秀親連携協力部長のご出席を賜りました。



会議の冒頭、Son 院長による挨拶



JICA本部から人間開発部吉田課長(中央)と高島担当職員(左)も参加

今回の第1回目のJCCでは、プロジェクトが開始されて以来日本側専門家とチョーライ病院のカウンターパートが協力して行ってきたベースライン調査に基づき、プロジェクトの目標、成果およびそれぞれの指標を盛り込んだPDM (Project Design Matrix) の改定案について各担当カウンターパートおよび日本側専門家が説明し、双方の出席者の合意を得ました。

合意されたPDMの内容は、協議議事録(ミニッツ)に取りまとめ、Son 院長と吉田課長との間で署名・交換しました。

今後は、改めて合意されたプロジェクト計画に基づき、本格的な活動に取り組んでいくこととなります。

◎ 今回合意されたプロジェクト目標および成果 (PDM Version 1)

【プロジェクト目標】

チョーライ病院とチョーライ日越友好病院が患者中心で質の高い医療サービスが提供できるよう強化される。

【成果】

1. 医療安全管理対策、多職種連携およびクリニカルパスの効果的な運用により、チョーライ病院及びチョーライ日越友好病院における患者中心で質の高い医療サービスが強化される。
2. チョーライ病院及びチョーライ日越友好病院において、抗菌薬耐性 (AMR) 対策を含む医療関連感染管理および対策が強化される。
3. チョーライ病院とチョーライ日越友好病院がDOHA※ 管轄の省病院の患者安全、安全な患者の搬送、感染管理を強化する能力が高まる。



JCCで合意された内容を協議議事録にして署名

※ DOHA (Direction of Healthcare Activities):

上位病院が下位病院を指導・支援するしくみ。チョーライ病院が担当する対象病院は保健省により定められている。

2. 医療安全担当者養成研修会に30名が受講

医療安全・看護管理 森山 潤

9月26日から11月7日まで、全6回に分けて、現場での医療安全を担う担当者を育成することを目的に、チョーライ病院クオリティ・マネジメント部と合同で医療安全担当者養成研修会を実施しました。

研修のテーマは、医療安全概論、インシデントレポートシステム、5S、危険予知トレーニング(KYT)、原因根本分析(RCA)、アクションプラン発表です。研修で「理解できた」知識を、現場で「実践できる」ように研修後もフォローしていきます。

研修修了者は、クオリティ・マネジメント部と連携し、医療安全情報の周知、医療事故・ニアミス発生時の事故分析のサポート等を行います。5年後には80%以上の部署に研修修了者が配置されていることを目標に、今後とも本研修を継続していきます。



活発な議論が行われました

◎5S活動の推進について:

現在、プロジェクトではクオリティ・マネジメント部と協力して12病棟に対して、5S活動を展開しています。5Sは、「整理」、「整頓」、「清掃」、「清潔」、「しつけ」により職務環境を改善するためのツールです。ベトナム保健省の病院評価項目にも含まれており、ベトナム国内の病院でも導入が進んでいます。一緒に取り組みたいという要望がありましたら、クオリティ・マネジメント部またはプロジェクト事務所までご連絡ください。

3. 第一回感染管理研修会を実施 ～感染対策担当者(ICP)を養成～

院内感染対策・看護管理 黒須 一見



120名を対象に研修を実施

チョーライ病院では、各部署の医師および看護師長から構成される感染管理ネットワーク(約100名)とサーベイランスチームの看護師(約20名)が現場の感染対策の推進活動をしています。感染対策の強化のためには、全部署に感染対策担当者(Infection Control Practitioner:ICP)を配置することがのぞましく、今後5年間で約40名のICPを配置することを計画しています。

今般、10月20日から11月17日まで全3回に分けて、感染管理ネットワークメンバーと新たに任命するICPの計120名を対象に感染管理研修会を開催しました。

今回の研修では、ICPの役割や人工呼吸器関連肺炎予防策、手術部位感染対策等について学んだほか、私からは、日本での感染対策の紹介や「ケア・バンドル」についての講義を行いました。また、各部署の院内感染に関する問題点を抽出し、課題にも取り組んでもらいました。

ICPに対しては、2018年1月に3回の追加研修を行うことを予定しています。

◎ケア・バンドル(Care Bundle)とは:

科学的に有効性が認められた介入法を単独で行うのではなく、複数束ねて(bundle)行うことで、高い治療効果を得ようとする方法。チョーライ病院では、現在、人工呼吸器関連肺炎と手術部位感染の低減を目指し、ケア・バンドルの導入を計画しています。

今後の予定:

12月18日～26日 忽那賢志 短期専門家(感染症治療、国立国際医療研究センター医師)来訪
2月26日～3月2日 橋本理生 短期専門家(呼吸器内科、国立国際医療研究センター医師)来訪

独立行政法人 国際協力機構(JICA)

チョーライ病院向け病院運営・管理能力向上支援プロジェクト

事務所: 10F, Block D, Cho Ray Hospital, 201B Nguyen Chi Thanh, District 5, Ho Chi Minh City, Viet Nam

Tel: 028 3620 5032 (直通) E-mail: chorayjica@gmail.com

ホームページ: <https://www.jica.go.jp/project/vietnam/044/index.html>



(編集責任: 業務調整 松本 丞史)